

学校の背景 教育理念

1. 学校の背景

本校は、愛媛県北東半島に位置し、平成 17 年越智郡 11 町村、芸予諸島の南半分の島嶼部と合併し、人口 15 万人規模の愛媛県今治市にある唯一の医師会立看護専門学校である。高等課程准看護科及び専門課程第一看護学科(3年課程全日制)、専門課程第二看護学科(2年課程全日制)を併設しており、地域住民の健康を守る看護師等の養成を担っている。

今治市の人口減少化は緩やかに進行し、就労人口の減少に伴い医療・介護の分野等の求人が追いついていない現状である。平成 28 年度より今治市では「～豊かな地域社会を次世代につなげるために～」をスローガンに「健やかに安心して過ごせるまちづくり」の事業展開を行っている。それに伴い、本校もこれから 10 年 20 年先の医療状況・地域特性と課題を踏まえ、社会や地域の要望に応える看護職の育成そして長期にわたって就労し地域に貢献できる人材育成を目指し設置されている。

この設置主体の意図を生かし、以下の教育理念、目的、目標を設定した。

2. 教育理念

人間は、全人的な存在である。また地域の中では、生活者としての役割を持っている。その役割を果たすことができるよう、胎生期から老年期まで各世代の健康課題に応じた支援が必要である。

看護は、多様化する社会に応じて顕在的・潜在的な健康課題に対する対象者への基礎的実践能力が求められる。そのため、地域医療に貢献する保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携しながら協働できる能力を養う。

このような地域社会での看護の責任を果たすため、看護専門職業人として、想像力・探求心をもった看護実践者を育成する。

3. 教育目的

専門的知識・技術を教授するとともに、健全で、多様な価値観を有する人間の理解を深め教育を行い、知識と実践を結びつけ、地域社会に貢献できる人材を育成する。

4. 教育目標

- 1) 人がもつ多様な価値観・自己について理解し、人間関係の形成ができる。
- 2) 看護師としての責任を自覚し倫理観・看護観を持ち、自ら行動することができる。
- 3) 対象者を生活全体でとらえ地域で暮らす生活者として支援することができる。
- 4) 看護の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を養うことができる。
- 5) 社会の変化をとらえ、学び続ける意欲を身につけることができる。

5. 高等課程准看護科 教育目標

- 1) 人間を生活する人として、身体的・精神的・社会的側面から把握する基礎的能力を養う。
- 2) 対象者を安楽に配慮し、療養上の世話または診療の補助を安全に実施することができる基礎的能力を養う。
- 3) 生命の尊重と個々の人格を尊重し、倫理に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
- 4) 医療の動向および看護の役割を理解し、保健医療福祉のチームの一員として地域に貢献できる能力を養う。
- 5) 専門職業人としての意識を持ち、自己研鑽に努める能力を養う。

▶ アドミッションポリシー(求める生徒像)

- 1) 准看護師として地域に貢献したいと考える人
- 2) 人間の暮らし・健康・社会に関心がある人
- 3) 社会のマナー・ルールを守り責任ある行動がとれる人

▶ カリキュラムポリシー

教育目標やディプロマ・ポリシーを達成するために必要な教育課程の編成や教育科目の内容および方法について、基本的な考え方を以下のように定める。

- 1) 本課程のカリキュラムデザインは、学年の進行とともに系統かつ発展的に学ぶことができるよう科目を配置する。
- 2) 基礎科目には、すべての学習の基盤、コミュニケーション能力を高められるよう国語表現を置く。また、社会のニーズに柔軟に対応できる能力を養うため、情報科学・公共倫理を配置する。
- 3) 専門基礎科目には、人体の構造・機能を理解し、健康障害や治療に関する基礎知識を養う科目を配置する。
- 4) 専門科目には、看護・環境・人間の概念を学び、看護を必要とするものの見方や考えを学ぶ看護概論から学び、すべての看護の基礎となる基礎看護技術を置く。また、対象の成長発達・ライフサイクルを考慮して健康レベル・治療などを系統だて学べるよう配置する。
- 5) 臨地実習では、看護の実践を目指し、より深い専門性を身につけるよう実習施設と連携をとりながら指導し確実な看護実践能力の強化できるよう配置する。

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定)

- 1) 生命の尊重と人間の尊厳を守り、相手の立場に立って行動できる。
- 2) 人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する行動がとれる。
- 3) 看護を実践するうえで、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。
- 4) 保健・医療・福祉チームの中で、准看護師としての役割を考えて行動できる。
- 5) 社会情勢や医療の動向に関心を持ち、看護のニーズを考えることができる。
- 6) 主体的に学習し、看護を探究し続けることができる。